

私たちの思い、私たちの決意」

とともにありたいと願い、新たな学びへと向き合う8人の先生の言葉を紹介する。

◎被災地の先生方の生徒たちへの思いと力強い言葉に感銘を受けました。私は前任校で震災を経験しました。考査の午後学校に残っていた生徒たちの安全を確保し、無事に帰宅させるため、臨機応変に的確な行動をとる先生方と、恐怖の中でも冷静さを失わずに行動していた生徒たちの姿が目には焼き付いています。先生方と生徒たちの底力に感心させられました。生徒たちの力強さを信じ、教育を通じて新たな日本の創造に役立てることを誇りに感じながら、共に頑張っていきましょう。

銚子市立銚子高校 田中三郎

◎多くの未来ある子どもたちの命を奪い取った今回の大震災に心を痛めています。大きな悲しみと混乱の中で教育に立ち向かう先生方の言葉を読み、生徒とともにあろうとする姿に感銘を受けました。生徒たちに寄り添い、ともに悩み考えることが教育の原点であると改めて教えられた気がします。被災地の悲惨な状況を映像で見ると、一教育者として何が出来るかと考えざるを得ませんでしたが、どんな状況下であっても、希望を捨てない、生徒とともにあろうとすることが教員としての使命だと確信しました。

富山県立高岡高校 城岡朋洋

◎東日本大震災は被災地から遠く離れた広島の高校生にも強い影響を与えた。免震構造を深く研究したい、災害に強い街づくりを学びたいなど、将来の研究テーマに言及する進学決定者も現れた。社会においていかに自己実現を図るかが進路の目標であるならば、人のため社会のためと思うことは自己実現の強い推進力となり得る。未曾有の震災に正面から向き合い、自らの将来像を重ねようとする高校生をみると、幾多の困難に挑み未来を切り拓く次世代を育てることこそ高校教育に求められる不変の課題である。

広島市立基町高校 田中伸二

◎20年前、島原半島は雲仙・普賢岳噴火に伴う火砕流と土石流による災害で、学校生活の日常性は失われてしまいました。多くの生徒が避難生活を余儀なくされました。その困難を克服したのは地域の潜在力と生徒たちの真の力でした。その時だからこそできる教育も徹底しました。翌春、島原高校の進学実績は空前の好結果でした。

東日本大震災の大災害、お見舞い申し上げます。私たちは東北地方の底力と生徒の力を信じています。苦難を乗り越えた先にある、確かな夢の実現を心から祈っています。

いさはやコンピュータカレッジ 久原巻二(元長崎県立島原高校)

ベネッセ東北支社社員より「今、私たちが思うこと」

◎地震発生時、高田高校にお邪魔しておりました。避難した裏山のグラウンドでは、厳しい環境に負けない生徒たちがいました。「運動部ですから」と言い誰よりも動く生徒、たき火に当たる場所が無いと分かると雪の降る夜に、暖の無い部室で過ごす生徒、おにぎりを分け合う生徒、「素晴らしい生徒だ」と涙が出ました。その様な岩手県の生徒の未来のため、ご指導される先生方のお力になれるよう、全力を尽くします。(岩手県担当・森本典生)

◎学校訪問前は「迷惑ではないか?」と不安がありました。しかし、先生方は笑顔で迎えてくださいました。「普通に接してください。特別なことをされても困るから」と。先生は「授業を受けたり、友達と笑ったり、先生に叱られたり。そんな当たり前の日常を取り戻したい」と話してくださいました。私は「特別」なことは出来ないかもしれませんが、私に出来ることを丁寧に、少しでも学校の日常に役立てばと思います。(宮城県担当・柏崎亮太)

◎この度の震災で被害を受けられた先生方、生徒の皆様には心からお見舞い申し上げます。福島県内のある学校で、校舎が使用出来ない中、困難な状況に耐え、ご指導される先生方、学ぶ高校生の姿に感

銘を受けました。福島県担当として、福島県が震災を乗り越え、さらなる発展を遂げるお手伝い出来るよう尽力する所存です。福島県の未来の礎となる高校生を、先生方とともにサポートできる仕事に誇りを持って取り組んで参ります。(福島県担当・寺尾岳大)

◎震災で被害を受けられた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。新学期の非常にお忙しいところ、弊社担当者への訪問に日々ご対応いただき、誠にありがとうございます。お伺いする度にたくさんの先生方からご依頼を頂いております。今年度も生徒さんの希望進路実現と、そのための先生方のご指導のお手伝いを精一杯させていただきます。(東北支社 営業統括・丸尾徹)

◎震災直後、先生方自身が大変な状況にも関わらず、進学についてなど生徒のために必要な情報のお問い合わせを本当に多くいただきました。そして最後には必ず、私ども東北支社や営業担当者を気遣う言葉をかけて頂きました。この場を借りまして深く感謝を申し上げます。今もただ目の前の生徒を見つめ日々のご指導にまい進されている東北地区の先生方のお役に少しでも立てるよう、私たちがしっかりと前を向き行動して参ります。(東北支社長 馬場 尚征)

全国の先生方から被災地の高校へ

このたびの東日本大震災を全国の高校教師はどのように受け止めているのか。被災地

◎この度の大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。本校のある奥尻町も18年前に発生した北海道南西沖地震で甚大な被害に遭いました。全国の皆様の温かいご支援によって今では以前の豊かな自然を取り戻し、生徒たちは故郷を誇りにし、生き生きと学校生活を送っています。厳しい現実の中で途方に暮れることばかりでしょうが、今こそ学校が子どもたちの力を信じ、子どもたちと地域のために教職員の皆さんの持てる力を発揮する時です。諦めない気持ちを皆さんに教えてあげてください。

北海道奥尻高校 野村俊夫

◎みちのくは遥か太古の昔から、何度も自然の猛威に曝されてきた。しかし、その度に未来を凝視する勇気と英知を駆使し、何度も立ち上がってきた。その魂の何ものにも代えがたい人々の強靱な意志を、私は誇りに思っている。今こそ東北人の粘り強く決して困難に屈しない勇気の在り処を、新たな時代の構築のために示そうではないか。そのためには我々はいかなる援助も厭わない。学校は校舎ではない。そこに生徒と教師がいて、志があれば「学校」は生きる。同じ東北人として心から魂の再生を祈っている。

群馬県立前橋東高校 山口和士（東北出身）

◎私の学校は、英国ロンドンのセント・ポールズ校と姉妹校協定を結んでいます。そちらの校長先生から震災後すぐに次のようなメールを頂きました。「多くの犠牲者の皆さんに深い悲しみを抱きました。しかし、日本は強い国です。必ずや立ち直ると確信しています」と。

私はこれを全校生徒に伝えるとともに、日本人の「どんな困難にも負けない凛とした姿」、「真摯に努力する姿」を改めて生徒に訴えました。世界が日本を応援しています。私たちの気持ちは一つです。私の学校も頑張ります。

愛知県立時習館高校 林 誉樹

◎私が経験した阪神淡路大震災から16年経った今振り返ると、いろいろなことがよみがえります。その中で、学校の先生として一番すべきことは、生徒の出口指導だと思います。震災で変わったかもしれない夢でも、生徒のその夢をかなえるために、環境に合わせて勉強が出来るような対策や、奨学金の情報など、学校が出来ることを生徒に発信してください。目の前のことだけでなく、長いこれから先のことを考えて生徒に接してください。最後に、生徒を引っ張る先生方が潰れないように気を付けて頑張ってください。

兵庫県立神戸高校 森川喜一



VIEW21 6月号 Vol.2

2011年6月6日発行

発行人 新井健一
編集人 原 茂
発行所 (株)ベネッセコーポレーション Benesse教育研究開発センター
印刷製本 (株)ビーヴィコーポレーション
編集協力 (有)ベンダコ
執筆協力 中丸満
撮影協力 田中秀和、南弘幸、ヤマグチイッキ
イラスト協力 山本重也

VIEW21編集部
〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング13階
電話 03-5320-1287 ©Benesse Corporation 2011

編集後記

◎6月号の取材がピークを迎えようとする時、今回の地震が起きました。各地の状況が明らかになり、私たちが今やるべきことは、VIEW21を発刊することなのか、と思悩みながら、今日に至りました。その中で「VIEW21を出すことが我々の果たすべき使命だ」と決意させてくれたのは、被災地の読者の先生方から届いた学校新聞や、先生方の思いが伝わったメールや FAX でした。情報誌を通して出来ることは何か。知恵を絞って考え続けていきたいと思います。(小林)

◎未曾有の震災の直後、いったい自分に何が出来るのか途方に暮れました。しかし、先生方と誌面をつくっていく過程で、これまで通り VIEW21を通じて全国の学校と学校がつながるお手伝いをするところこそ、私たちのすべきことだと感じるようになりました。先生方の励みとは、生徒の成長と、想いを同じくした先生同志の声であると信じています。情報誌に携わる者として、また一人の日本人として、自分に出来ることを問い続けていこうと思います。(佐藤)

◎「頑張るしかない。生徒は勉強するしかないのです。何故勉強をしなければいけないのか。その答えはとてもシンプルでした。そこには、震災があっても変わらない教師と生徒による「教育」の営みがありました。あらゆる付加価値がそぎ落とされても、教育の中でもっとも大切なものだけは、強い光を放ちながら、確かにそこに存在していました。(小泉)